

ドーピング まめちしき!

Vol.12

嶋元医院 院長 嶋元 徹

ドーピング検査を行う検査員(DCO)の経験者

どんな検査を受けるの？(その⑤)

前回までで採尿から検体の封印までの流れを説明しました。今回は、検体が無事サンプルキットへ封印された後についてご説明します。

まず、検体がサンプルキットへ封印されると、検査員は尿比重を測定します。尿比重を測定する目的は2つあります。1つは、検査に適切な検体であるかを確認するためです。そしてもう一つは、ドーピング防止のためです。海外ではまれに、他人の尿を利用したり、水で希釈したりして、いろいろな方法を使って細工したものを検体として提出する選手が存在します。そういったことを事前に防ぐために、尿比重を測定します。

そして、比重測定と同時に他の検査員はドーピング検査に必要な公式記録書を記入していきます。ここで、選手に気をつけていただきたいことがあります。検査全体を通して、納得できない事があったり、検査員の不審な行動があったり、選手自身に不利益があった場合は何でもかまいませんので、意見があれば、必ず公式記録書に記入してください。日本ではまずありませんが、海外での検査では特に注意が必要です。選手がどんな意見を記入しても、検体分析結果や判定に影響はなく、不利益となることはありませんので、安心して記入してください。

また、7日以内に使用した薬剤、サプリメントがあれば検査員に申告します。ただし、この申告は検査結果には影響しませんので、ここで申告をしてもTUE(治療目的使用に係る除外措置)の代わりにはなりません。

すべての書類に記入し終えた後、検査員は公式記録書の確認を求めてきます。選手、同伴者と共に書類を確認し、漏れや間違いが無ければサインをします。その後、検査員は検査の控えを必ず渡してくれますので、大切に保管してください。

以上で検査は終了です。



- ① 検査に対しての意見があれば必ず書類に残しましょう
- ② どんな意見でも選手に不利益はありません
- ③ 検査の時の薬剤などの申告はTUEとはみなされません